

ころばん体操出前講座活動報告(平成29年11月10日)

【講話】

- 1.「いつまでも自宅で暮らすために」 地域包括支援センター保健師 久保小百合
- 2.「がんばりすぎない介護を応援します」～退院支援について～
在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター 南新敦子

参加者の声

平成29年11月7日(火)大藪公民館 9:30～11:00(参加者14名)

「いつまでも、大藪地域の自分の家で暮らして行きたいと思っています。」(皆さん一斉に挙手でした)ポックリと朝亡くなっていた…というのがいいです。(数名、深い肯きがありました。)

「年をとっても、とにかく健康で、過ごすことが一番だと思っています。」

「現在、元気で不自由なく生活していますがこれから先、不安を覚える時が来ると思うので考えていこうかと思えます。」

まだ、介護とか実感が湧かない。まだ真剣に考えたことがないが、これからは、マイライフノートにちゃんと自分の思いを書いておくことは大事なことだと思います。

(本日は60歳、70歳代の参加が多く、在宅医療や介護について実感が無いというご意見がありました。マイライフノートについて関心を持って頂いて、色々書いて置くことは、これから必要かもしれないとの話も聞かれました。「いいノートだね」とのご意見もありました。)

平成29年11月9日(木)金山下公民館 13:30～15:00(参加者7名)

「ずーっと自分の家で暮らして行きたいと思っています。」(皆さんがうなづかれました)

「近所に朝普通に挨拶をして、次の日亡くなっていた人がいました。そんな風に自宅で亡くなれたらいいです」「一人暮らしだから、これからの事は心配になります。」

「以前母が入院した時に退院先を家族で考えておいてくださいと言われて困った時がありました。退院後の支援があると安心します。」

「尊厳死を望んだ場合、マイライフノートに書いておけばいいでしょうか。…?」

「胃瘻の事とか自分の思いなど書いて置くと、家族も助かりますよね…。」

(一人暮らしの方が数名あり、子供たちも遠方に居るので出来るだけ自宅で元気に過ごして行きたいがこれから先の事は心配です。と話されていました。地域の皆さんでこのような話も話題になるとのことでした。)



大藪公民館



金山下公民館